

小沢代表が辞意

民主
「党内混乱の責任」
「大連立」で求心力低下

民主党の小沢一郎代表は四日、辞意を固め、党幹部に伝えた。党関係者によると、小沢氏は辞意の理由について「党内混乱の責任を取る」と伝えた。小沢氏は同日午後四時から党本部で記者会見した。

小沢氏をめぐっては、福田康夫首相との二日の会談後に連立政権協議の提案を持ち帰ったことで党内や野党各党から批判が上がっていた。「大連立」を小沢氏側から持ち掛けたとの見方も浮上、党内での求心力低下が指摘されていた。

二日の会談で小沢氏は、国連決議に基づく形

衆院本会議後、民主党控室を訪れた福田首相（右）と握手する小沢代表。9月、国会

小沢 一郎氏(おざわ・いちろう)
慶大卒。自治相、自民党幹事長、新進党党首、自由党党首、民主党代表代行、同党副代表。65歳。岩手4区。衆院当選13回。

での自衛隊海外派遣を随時可能にする「恒久法」の必要性を強調。具体化に向けた動きが始まれば、新テロ対策特別措置法案審議などに協力する考えを示した。

これに対し、首相は連立協議を提案するとも、連立を前提として恒久法制定に取り組み考えを表明。小沢氏は提案を党に持ち帰り役員会に諮ったが、反対意見が相次いだ。このため国民の理解を得られないとして提案を拒否する決定を首相に伝えていた。

小沢氏は「送金指示メーブル」問題で辞任した前原誠司氏の後任として昨年四月に代表に就任。今年七月の参院選で、与野党を逆転させ、民主党を参院第一党に躍進させる大勝に導いた。